

# 千葉県における平成 28 年春のスギ花粉飛散量の予測

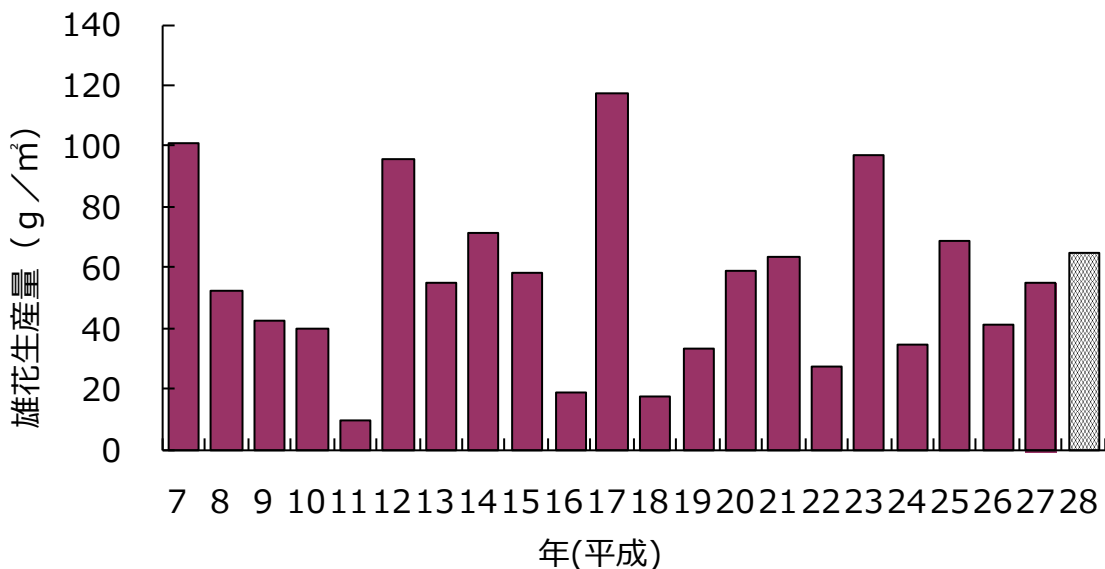
－ 花粉飛散量は昨年より増加しやや多くなる見込み －

## 1 予測の概要

千葉県農林総合研究センター森林研究所では、毎年 11 月から 12 月にかけて県内のスギ林 45 箇所において、スギ花粉飛散量を予測するための調査を実施しています。

この調査の結果、平成 28 年春に花粉を飛ばす雄花の生産量（注 1）は、平成 27 年春の 1.2 倍程度に増加することがわかりました（図－1）。

したがって、平成 28 年春のスギ花粉飛散量も、平成 27 年春の 1.2 倍程度に増加すると予想されます。なお、この量は、平成 18～27 年の 10 年間の平均値の 1.3 倍の量であり、花粉飛散量はやや多くなる見込みです。



図－1 県平均雄花生産量（推定値）の変化

## 2 花粉飛散量の予測方法

花粉飛散量は、花粉を飛ばす雄花の生産量から予測しており、雄花の生産量は、県内に 45 箇所設定した調査林の着花指数（注 2）から推定しています。

今回の調査では、45 箇所の調査林の平均着花指数が、昨年の 2,171 に対して 2,389 に増加しました（図－2）。平均着花指数と雄花生産量の関係は、図－3 に示すとおりであり、この関係を使って平均着花指数（2,389）から雄花生産量を計算すると、平成 28 年の雄花生産量は  $65 \text{ g/m}^2$ （表－1、図－1）となります。

この値は、平成 27 年の雄花生産量の推定値（ $55 \text{ g/m}^2$ ）のおよそ 1.2 倍、平成 18～27 年の 10 年間の平均値（ $50 \text{ g/m}^2$ ）の 1.3 倍となります。

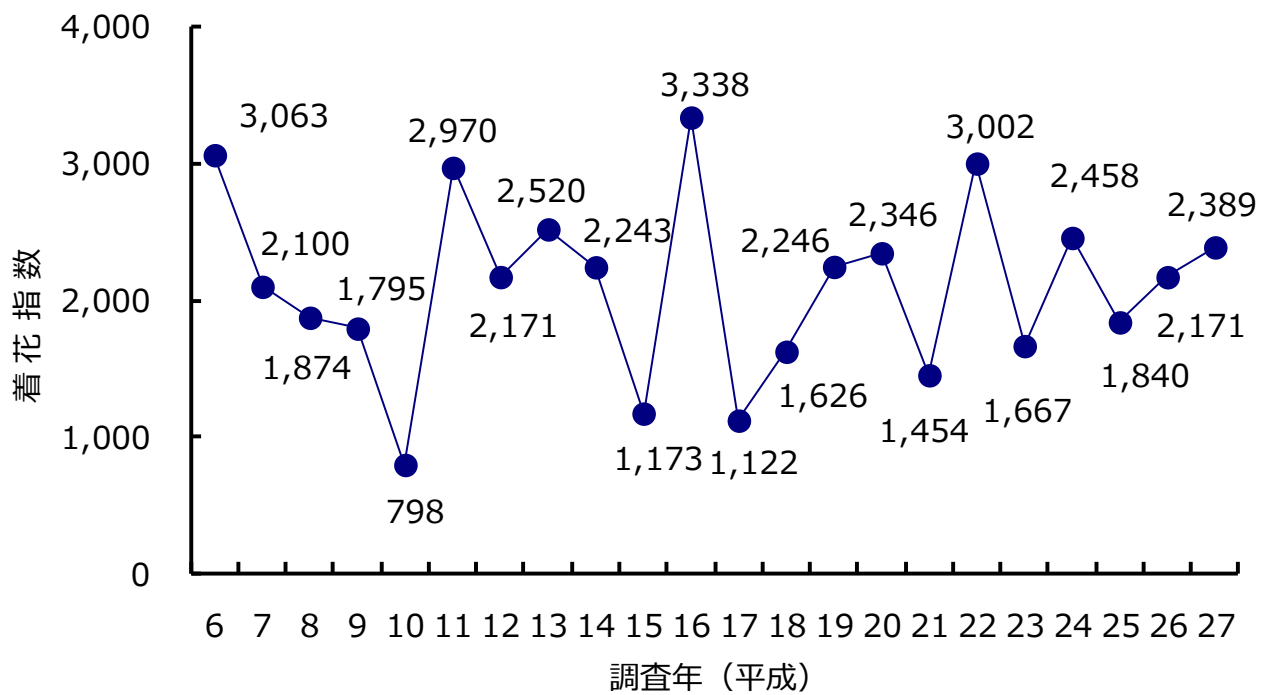


図-2 着花指数の平均値の変化

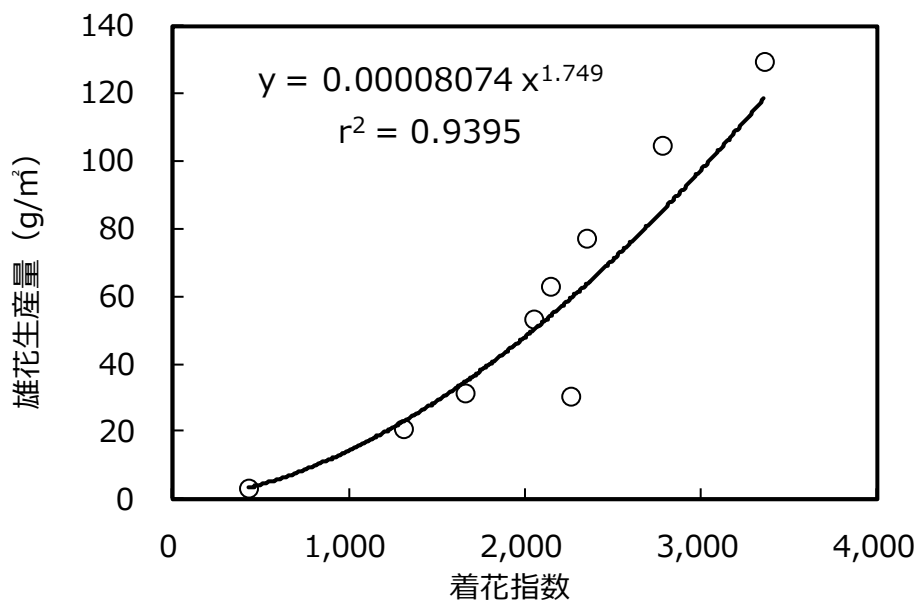


図-3 木更津市の調査林における着花指数と雄花生産量の関係 (平成7~15年)

表-1 平均着花指数から推定した雄花生産量（乾燥重量，g/m<sup>3</sup>）

	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
平均着花指数	3,063	2,100	1,874	1,795	798	2,970	2,171	2,520	2,243	1,173	3,338
推定雄花生産量	101	52	43	40	10	95	55	72	58	19	117
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
平均着花指数	1,122	1,626	2,246	2,346	1,454	3,002	1,667	2,458	1,840	2,171	2,389
推定雄花生産量	17	33	59	63	27	97	35	69	41	55	65

### 3 スギ花粉症の方へ

- ・ シーズンを通した花粉飛散量は、昨年より増加しやや多くなることが予想されます。花粉症の方は、重症化しないように適切な時期に医療機関を受診し、日々の花粉飛散量の情報に注意して、できるだけ花粉と接触しないようご注意ください。
- ・ 花粉飛散量は、周辺のスギ林の分布や、飛散時の気温、湿度、風向きなどの気象条件によって地域ごとに異なり、局所的に多くなる場合がありますのでご注意ください。
- ・ 花粉症ではない方も、多量の花粉に接触すると花粉症を発症する可能性があるため、マスクを着用するなどできるだけ花粉と接触しないようご注意ください。

#### 注1：雄花生産量

スギ林1平方メートルあたりで生産される雄花の乾燥重量です。スギ林内に雄花トラップを設置し、花粉放出後に落下する雄花を捕捉して測定します。

#### 注2：着花指数

スギ林内の40本のスギの上部に着生する雄花を双眼鏡で観察し、雄花量をA～Fの6段階に評価し、各ランクの本数に重み付けの点数（100,60,50,40,5,0）を掛けて合計したもので、0～4000の値をとります。（独）森林総合研究所の横山ら（1992）により考案されたもので、雄花生産量との相関が高いことが知られています。

千葉県農林総合研究センター森林研究所  
289-1223 山武市埴谷 1,887-1  
TEL.0475-88-0505 FAX.0475-88-0286

<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/shinrin.html>